

今日、会場にいらつしやるのはパチンコ業界の経営者、幹部の皆さんと聞いています。私も、パチンコ業界の人とは、日頃、数多くお付き合いさせていただいていますが、皆さん熱い思いを持っていらつしやる方ばかりなので、本日はひとつ気合を入れてお話をさせて頂きたいと思えます。

**なぜうまくいく人と  
いかぬ人がいるのか**

今日お話しするのは、人の可能性とか、人の能力の引き出し方です。私はこの12年間、居酒屋をやってきましたが、正直言って居酒屋そのものの勉強というのはいままでしてきませんでした。勉強してきたのは、どうやったら人の持っている能力を最大限引き出せるのか、どうすればやる気のない人たちが輝いて仕事ができるのか、ということでした。

このテーマは、実は私が、一生絶対これだけは続けていこうと思っていることでもあります。私たちの業界には、アルバイトの方も多く、最初からやる気のない人、あきらめちゃっている人が、90パーセントくらいいます。そうした

## 講演「人間の可能性をどう引き出すか」(要旨)

有限会社「てっぺん」代表取締役 **大嶋啓介**

# イメージと言葉、動作と表情 四つのプラス思考が成功に導く

「第4回遊技産業マネジメント・カレッジ」の2日目、9月10日に有限会社「てっぺん」代表取締役・大嶋啓介氏が「人間の可能性をどう引き出すか」と題して、講演を行いました。大嶋氏自身の苦闘と研鑽の中から、人の能力をどう引き出せるか、人がどう成功への道を歩めるか、実績の裏打ちを背景に熱く語り、マネジメントカレッジ参加のメンバーに感銘を与えました。その講演の要旨を再録します。

中で、多くの人の能力、可能性を引き出せる人間になりたいと思い、さまざまな研修とかセミナーに顔を出してきました。それはもう研修、セミナー「オタク」と呼ばれるくらいです。

そこで学んだことのひとつです。皆さんにお聞きしたい。人生でうまく行く人と行かない人の違いというのは何なのでしょう。皆さんにもいろいろご経験があると思いますが、世の中には何でもうまくこなせる人とそうでない人がいます。同じ店長さんでも結果を出し続けられる人とそうでない人がいます。どこが違うのだろうかということです。

**可能性というのは  
「未来の力」のこと**

今から12年前、私の人生は変わりました。24歳でした。それまでの私は、まったくダメな人間でした。最初は営業マンでしたが、まったく結果を出せずに、会社は1年間でクビになりました。その後は、飲食業界に入ったわけですが、ここでもまったくダメでした。店長にまでなりましたが、まったく結果が出せません。店長になって8か月間、生きた心地がしませんでした。正直自分でも嫌



になって、目をかけてくれた社長に、もう辞めさせてくれと申し出たんです。

そうしたら社長から、一度セミナーに出てみないかといわれました。それまで、何度かセミナーに出るといわれていたんですが、元来、研修とかセミナーというのが大嫌いな性分で耳を貸しませんでした。そういうところの講演なんか聞くと、なんか胡散臭くて嫌だったんです。しかし、お世話になった社長から、きつと何かが変わる、もしこの会社を辞めるにしても君のこれからの人生に、必ず役に立つからといわれて出たのが、ある3日間のセミナーでした。そこで教えられたのが、人生うまくいく人といかない人の、その違いとは何かということでした。

ズバリ答えを申し上げましょう。それは、『自分の可能性に気づくかどうか』ということです。可能性というのは「未来の力」のことです。今何ができるかどうかは関係ありません。これから先のことです。だから、可能性がないという人はいません。みんな自分には可能性はないと思ひ込んでいますが、実は誰にも可能性はあるんです。ただ、



その魅力的な内容と、明るい表情と大きな声で大嶋啓介氏は聴衆をひきつけた

## 今の現実をつくる 思い込みや勘違い

12年前、セミナーで私はこう言われました。

「およそ80パーセントの人は自分の可能性に気づいていない。80パーセントの人は、自分の過去の体験にしばられて、これから先もダメだろうと思っている。何をやってもダメだろうと勘違いしている。こうした思い込みや勘違いが今の現実を作っているのだ」

私はそれを聞いて、衝撃を受けました。強烈でした。そこで、すぐさ

まセミナー講師の松原誠さんという方に、どうしたら自分の可能性に気づくことができるんですか、とたずねました。どうしたらやる気をなくした人が、自分の可能性に気づくことができるのでしょうか。皆さんにも考えていただきたい。皆さんは、幹部ですから、ご自身の可能性を感じ、信じていらっしゃるでしょう。しかし、部下の方とか、やる気を失ってしまった社員のやる気をどうしたら引き出せるか悩まれることもあったと思います。そんな時、どうやったら彼らの可能性に気づかせ、やる気を引き出せるとお考えでしょうか。

## 1mも跳べるノミが 30cmしか跳べない

「ノミの実験」というのをご存知でしょうか。ノミというのは、体は小さいのに1mくらい跳べるそうです。しかし、このノミを、30cmくらいの高さの箱に閉じ込めます。ほんの2分くらいでいいそうです。するとどうなるか。たった2分間でも、ノミは30cmくらいしか跳べなくなってしまうそうです。2分間で、本来1mも飛べる力があるのに、30cmしか飛べないと思ひ込んでしまうんです。

ノミは箱の中で、最初の1分間くらいは、いろいろ挑戦してみる。回数にして20回くらいは全力で跳んでみるそうです。しかし、どうやっても跳べないとわかると、とたんに諦めてしまう。人間も同じです。営業マンというのも大体7回くらいは挑戦してみるそうです。でも、それでうまくいかないと、諦めてしまふ。昔の私がそうでした。講師の松原さんは言いました。

「1mも跳べる力があるのに、あなたは自分で自分を箱に閉じ込め、フタをしていないか」  
その通りでした。



自分の最高の姿をみせることが大切だ



レジュメを見ながら熱心に聞き入る研修生たち

こういうのを「心理的境界」と言うそうです。自分で勝手に思い込んで、自分で「境界」を作ってしまうのですね。ただ、この心理的境界というのは誰にでもあります。これがない人は、かえって恐ろしいことになってしまいます。新幹線にぶつかっても俺は平気だなんていう人は、かえってアブナイ。しかし、本当はもっとできるのに、自分でできないと思いついて、人は多いと思います。たいていの人は、どこかにこうした境界を抱えて生きています。そうして、やる気を失ったアルバイト、社員は

皆さんの周りにたくさんいるのではないのでしょうか。ではそうした人をどうやったらもう一度やる気にさせられるでしょうか。30cmしか跳べなくなったノミに、もう一度1m跳べるようにさせるには、どうしたらいいと思いますか。

## どんな人に出逢うか それで大きく変わる

答えは単純です。能力や可能性を引き出すリーダーを連れてくればいいんです。ノミの場合でいえば1m跳んでいる仲間のノミを連れてくればいいんです。目の前で、1mも跳

べる仲間の姿を見たノミは、すぐに元のように高く跳べるようになります。人も同じです。やる気のない人の能力を引き出し、輝きを失った人に輝きを取り戻すことができるのは、目の前にいるリーダーの姿です。



私もかつては、やる気のないアルバイトや社員の意識を変えることばかり考え、あれこれ空回りしていた時期がありました。でも、やがて自分がアルバイトや社員にどういう姿を見せているか、それが大切なんだと気づきました。30cmしか跳べない人、跳べない人のそばに、どういうリーダーがいるか、どういう姿を見せているかが大切なんだと気づいたんです。

人生はどういう人のそばにいるか。そういう人に出逢うか、それによって大きく変わります。そうした意味で、わたしはセミナーで出逢った講師の松原さんによって変わりました。

そこでまた、お金と時間の遣い方も習いました。自分の可能性に気づき、というのが、その教えでした。

そのため、この10年間は、研修、セミナーオタクと呼ばれるほど、そうしたものに通いつめ、自分を磨くことに努めてきました。そんななかで、では具体的に人の能力をどうやって引き出すか、私が学んだ西田文郎氏の教えのなからそのいくつかをご紹介します。西田先生は、ドイツで生まれたメンタルトレーニングの専門家で、日本でも数々のオリンピックピック選手やプロスポーツ選手にアドバイスを行い、目覚ましい成果を挙げられています。





「ジャンケンも生命かけて」という大嶋氏の指導にマネカレメンバーは燃え上がった

## 朝起きてから15分間 脳をワクワク状態に

人間の脳には、パソコンの10万倍に匹敵する能力があるそうです。これは誰の脳も同じで、脳の能力、機能そのものには変わりはありません。だから、誰もがどんな夢も実現できる力を持っています。ただ、人生で成功する脳の状態と、失敗する脳の状態というのがあります。成功する脳の状態というのを常に保っていれば、誰もが面白いように成功できます。

この、人生を成功に導く脳の状態を「メンタルヴィゴラス」の状態といます。すなわちプラス思考の状態、脳がワクワクしている状態のことです。反対に失敗に導く脳の状態は脳が「バーンアウト(燃え尽き)」している状態、マイナス思考の状態、あの「やだなー」という感情に支配されている状態です。

人生を成功に導く、この脳がワクワクしている状態を、常に保っていられればその人の潜在能力をフルに引き出すことが可能です。ただ、この状態を常に保つというのはなかなかできません。そこで、日に3回、このときだけでも脳をワクワク状態

しておけば、非常に大きな効果が得られるといえます。それを紹介しておきましょう。

第一は、朝起きた後の15分間です。このときに脳をワクワク状態にしていけないと、その日に悪い結果が出ます。脳をワクワク状態にするには、脳の状態を切り替えることです。2秒で切り替えることができます。「スーパードレイントレーニング」という方法ですが、私たちが朝礼でやっていることが、ほぼそれにあたります。はじめは知らないで始めていましたが、後から聞いてそれがスーパードレイントレーニングそのものとわかって、いろいろ改良を加え今日に至っています。

## 寝る前の10分間に 「感謝」のイメージを

第二は、夜、寝る前の10分間です。それは特に「感謝」のイメージを思い浮かべることです。アメリカで成功している人のインタビューを集めた「ザ・シークレット」というDVDが人気を呼んでいます。ここでも最高の人生を引き寄せるのはやはりワクワクしている脳の状態であり、朝の「やだなー」という感情に始まり、夜寝る前のどうしようと



共生の森に集合したマネカレメンバーたち。この人との、そして自然との出会いが新しい人生をつくる



いうマイナス思考が、最低の人生を引き寄せると言っています。

第三は、物事がうまく行かなくなった瞬間です。うまく行かないときは誰だって落ち込みます。でもここで、すぐに脳を切り替えることです。「よし！変えるぞ」とワクワクする脳に切り替えることができれば、逆に幸運を引き寄せることができず。ある高校野球の監督は、ピンチのときこそベンチがお祭りのように大声を出して騒ぐように指導しているそうです。

「スーパーブレイントレーニング」

は、イメージ、言葉、動作、表情の四つのプラス思考によって作られるといえます。よいイメージ、よい言葉、元気の出る動作、それを人に伝える表情。これを意識的に訓練することによって、脳を活性化させ、本来誰もが持っている能力を引き出し、成功を引き寄せるのです。

## 人生をダメにする 三つの言葉がある

反対に人生をダメにする三つの言葉

葉というがあるので、これも紹介しておきましょう。

第一の言葉が「疲れた」という言葉。他人をねぎらう「お疲れさまです」というのは悪くありませんが、「疲れた」というのは、自分の気分をなえさせるだけでなく、人の気分も落ち込ませます。第二の言葉が、仕事の愚痴や不満です。そして第三の言葉が「無理」「できない」「難しい」という、後ろ向きな言葉ですね。こうしたことが、人生を前向きに切り開く力をそぎ、できない状態を作り上げてい

るのです。

コンピューターは、数多くのプログラマーがさまざまなソフトを作って、その命令に沿って動きます。人間の脳はそれよりもはるかに複雑ですが、言葉というソフトを作って、その指示で動くという構造は似ていると思います。「疲れた」「やだな」「無理、できない」こういう後ろ向きなソフトで頭がいっぱいになれば、脳というコンピューターもそれなりの仕事しかできなくなるのは当たり前だと思えます。

ある調査によると、「将来夢がない」とこたえる子供の比率が一番高いのが、日本の小学6年生だといいますが、この子たちも、しかし小学3年生くらいまでは、いろいろな夢を持っていたと思います。どこで夢を失うのでしょうか。子供たちが夢を失う瞬間というものがあろうです。それは親が仕事から帰ってきて言う「疲れた」という一言を聞いた時です。子供たちはその言葉を聞いた瞬間、「大人って大変だな」「仕事って苦しいんだな」と思う。やがて、「大人になるのはいやだな」と思っています。こういう子の中から、不登校児などが生まれると言う人もいます。親が子供の前で、疲れた姿、元

気のない姿を見せるのは禁物です。

同様に、経営者、または企業の幹部たるもの、社員の前では、つとめて明るい言葉を使わなくてはなりません。気持ちを盛り上げていかねばならないのです。これはベンチャー起業の専門家である福島正伸先生から聞いた話です。落ち込んだ姿は絶対に見せてはならない。こういうことは、すでに皆さんもよくご存知のことだと思えます。

## 自分の最高の姿を 人達に見せているか

私はこの話を聞いてから、会社では無論、家に帰る時も、常に最高の意識の状態にして帰ることにしています。そして、1週間に1度くらいは一緒に風呂に入りながら「いやー、今日も仕事が楽しかった」とやる。子供はきつと、「大人って最高だな」「早く大人になりたいな」と思うに違いありません。それが子供たちの成長する力になり、生きる力になると思えます。

家庭における子育てでも、企業における人材育成も同じです。やる気のない社員を見て、「こいつはダメなやつだ」と思う前に、自分が社員の前に最高の姿を見せているか、自分



カレッジの発表を終え、各班のリーダーが壇上にあがった。この経験が指導者への道となる（手前は深谷会長と井上委員長）



こちらが躍起になるほど向こうは変わってはくれませぬ。相手を変えようと思つたら、まずこちらが変わらなくてはならない。変わった姿を見せてあげなければならぬということに気が付きました。社員旅行などの機会をとらえて、できるだけこちらの抱いている夢を語り、毎日それに向かって努力している姿を見せる。このことが重要なんです。

よく店長が変わるとお店の業績も途端に変わるといふことがよくあります。アルバイトに対して、こいつダメなやつだと店長が思っているようでは、その店は良くなりっこありません。

部下の可能性を引き出すリーダーは、また可能性を信じる人でなくてはなりません。そして、あのノミのように、自ら跳ぶ事ができなくてはなりません。そういう人こそ人の可能性を引き出し、輝きを取り戻すことができるのだと思います。

## 若くして逝った父に「挑戦する」大切さを

最初は、こいつらを何とか変えてやろう、何とか一人前にしてやろうと悪戦苦闘しました。しかし、

今、私は36歳です。今年は私にとって特別の挑戦の年だと思つていました。実は、私の父は36歳で亡くなりました。父は警察官でした。仕事一筋の人で、家庭を省みる暇などない人生でした。だから、子供のころの私は、父のことをあまりよく思つていませんでした。普通の親みたい、子供と遊んでもくれない。もしかしたら、私は愛されていないんじゃないだろうか、とさえ思っていました。そんな父が亡くなったとき、お葬式にたくさんの方が集まり、父に世話になったと言ってくれたんです。そのとき、初めて、ああ父は、こんなに多くの人、多くの仲間にも慕われていたんだなと思うと、自分も父のように多くの人から尊敬される人間になりたいと思つたものです。私の会社の「てっぺん」という社名は、実は、そんな子供のころの気持ち、「父からよく見えるようになってっぺんに立ちたい」というところから、名づけた。父に愛されたい、認められたい、というのが常に私の思いの根底にあるんです。そんな父でしたが、かつて私が20歳になったら「いっしょに酒を飲み、夢を語りたい」といっていたという話を、10年前、結婚

式で叔父さんから、聞きました。父も私を愛してくれていたんだと、思わず泣いてしまいました。父にもたくさん夢があったに違いありません。人生、いつどういふことになるかはわかりませんが、一日一日を後悔することなく、それぞれの夢に向かって挑戦することが大切なんだ、と、36歳で亡くなった父から、そのとき教えられたような気がします。私も、これから一日一日を、思い切つて、楽しみながら、夢に向かって生きて行きたい。一生かかって、人の可能性を引き出し、人を元気にする、その方法を極めたいと思います。たくさんの方が、幸せな人生を送れるように、力を尽くしたい、と思つています。

### 略歴

大嶋 啓介 ● おおしま・けいすけ  
有限会社てっぺん 代表取締役  
NPO法人居酒屋甲子園 前理事長  
事業創造大学院大学 客員教授

1974年、三重県生まれ。居酒屋「てっぺん」の創業者。てっぺん独自の「公開朝礼」がテレビや雑誌等で取り上げられ注目を集めた。日本国内、韓国、台湾などから年間約1万人が「てっぺん」の朝礼見学に訪れている。2006年に居酒屋業界の活性化を目的にNPO法人「居酒屋甲子園」を立ち上げ、初代理事長を務めた。2007年、「第3回外食アワード2006」に選ばれ、外食産業に最も影響を与えた人として表彰された。